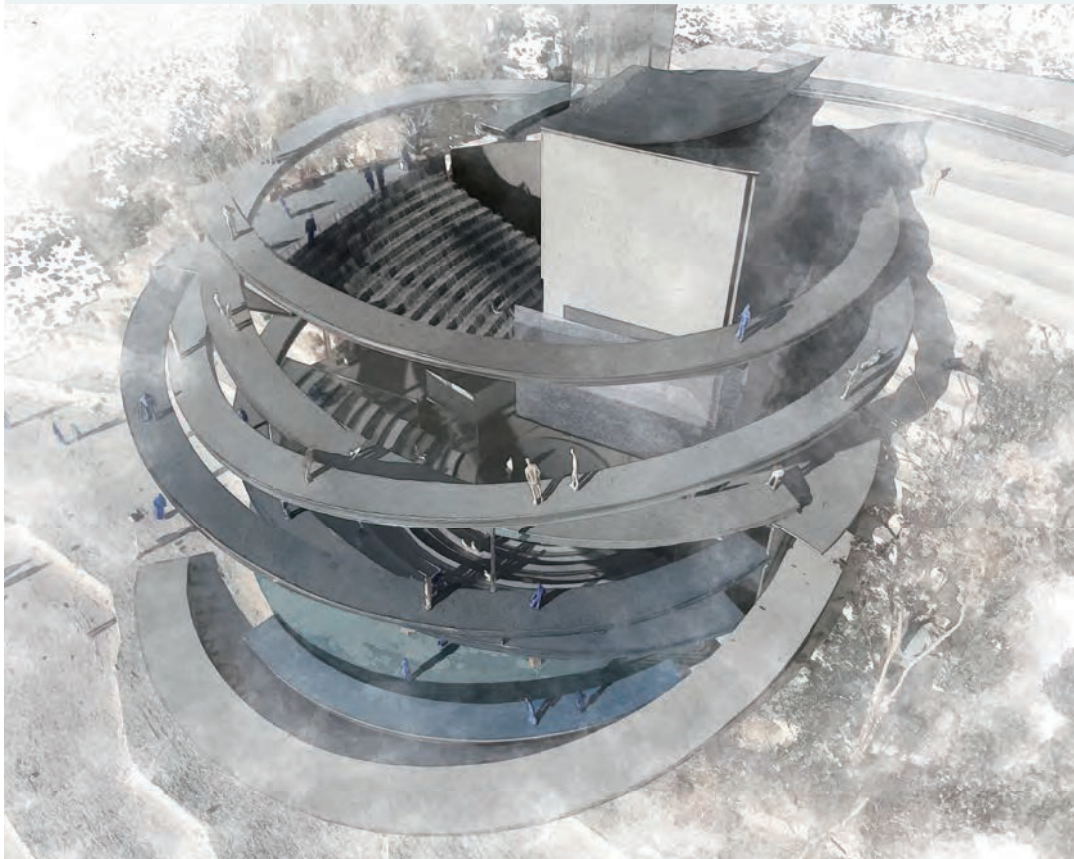
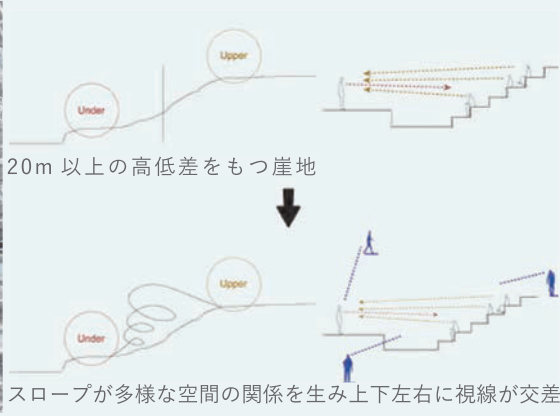
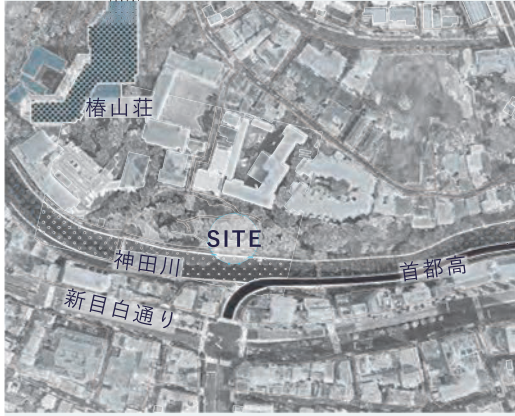


01.表裏一体を獲得する | 【まちの新しい劇場/江戸川公園/学内2位】

ふたつのまちを隔てる崖を、連続的で立体的な関係をつくり繋ぐ要素へと変換する。

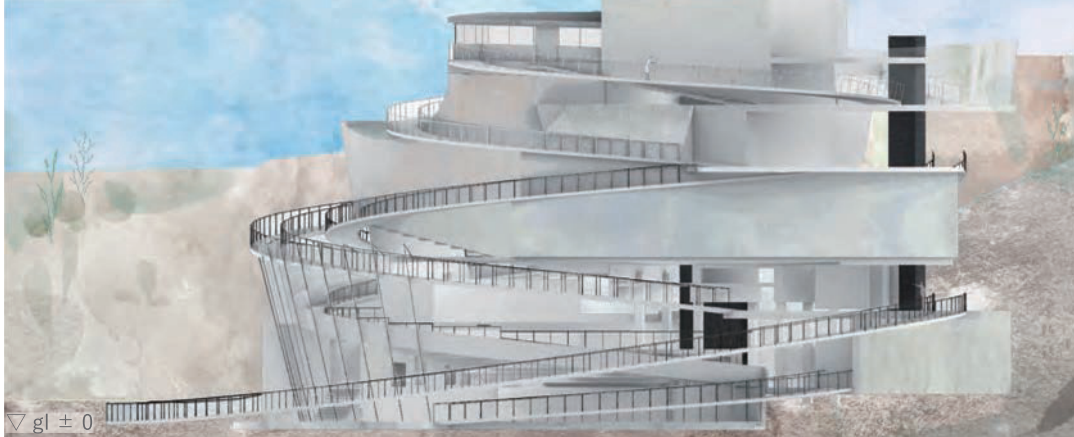
Site Plan ▼ 駅から少し離れたローカルな場所 Diagram ▼



観客、演者と立場を限定されず、まちの人がその時々オリジナルの視点で参加できる劇場を目指した。



▽ top=gl+24,500



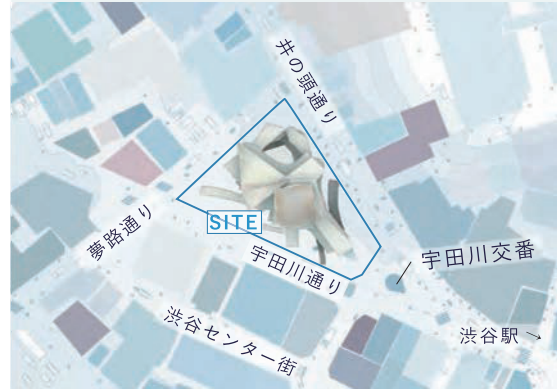
South Elevation ▲ 崖の上下を物理的につなぐインフラとしても、日常的にまちの人々につかわれる

02.仕掛ける躯体 | 【卒業計画/渋谷/2021/大隈講堂発表、石上純也賞】

制御と自由の衝突が続く渋谷に、ごちゃまぜ文化のアジュールとなる建築を提案する。



だれもが思い思いに空間を選び取って活動を展開する。建築という分節によって自由を得る場所となる



様々なベクトルに視線が抜け動線が立体交差する



Plan 1F-5F ▲ 各階がそれぞれの形、自由な平面を持つ。自由な柱配置を可能にするため格子梁を採用。

03 時を臨む | 【小学校 /2020/ 学内 6 位】

視点場がちりばめられた学びの庭。やがては未来への遺構となる。



04 「茶室」 | 【パビリオン /2019/ 理工展 出展】

茶室のもつ空間性を表現。大学周辺に根付く印刷業に着目し、紙管を材料に制作。



05 ネオ | 【コンペ作品 /2020】

頭脳競技もスポーツであると発信していく場

